経営比較分析表（平成30年度決算）

佐賀県　佐賀市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**	
-	74.98	81.61	3,456	

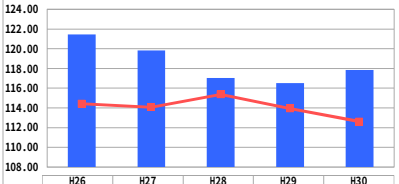
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
233,418	431.84	540.52
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km²)**	**給水人口密度(人/km²)**
189,847	139.29	1,362.96

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1．経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

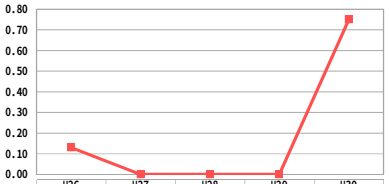
【112.83】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	121.47	119.84	117.05	116.53	117.87
平均値	114.43	114.08	115.36	113.95	112.62

②累積欠損金比率(%)

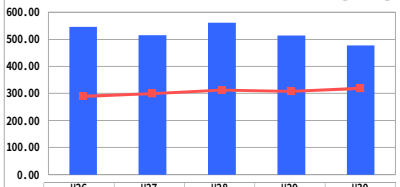
【1.05】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	0.13	0.00	0.00	0.00	0.75

③流動比率(%)

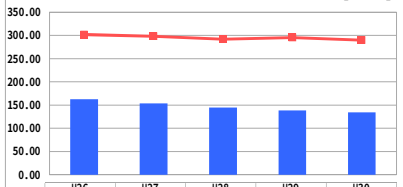
【261.93】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	547.14	516.57	561.84	515.16	477.75
平均値	289.80	299.44	311.99	307.83	318.89

④企業債残高対給水収益比率(%)

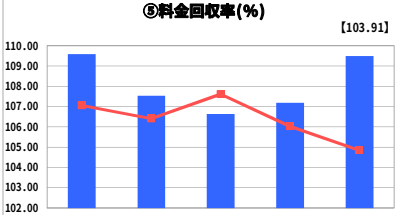
【270.46】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	162.70	154.25	145.06	139.06	134.58
平均値	301.99	298.09	291.78	295.44	290.07

⑤料金回収率(%)

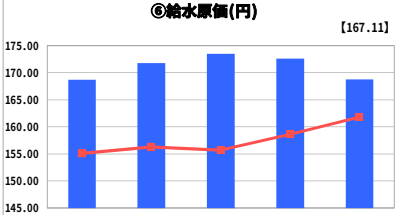
【103.91】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	109.59	107.53	106.64	107.19	109.50
平均値	107.05	106.40	107.61	106.02	104.84

⑥給水原価(円)

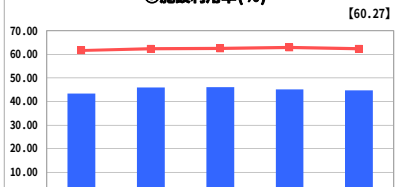
【167.11】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	168.73	171.78	173.52	172.60	168.80
平均値	155.09	156.29	155.69	158.60	161.82

⑦施設利用率(%)

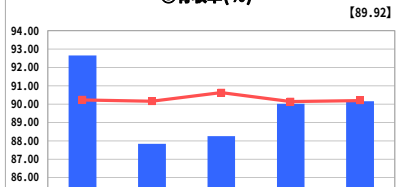
【60.27】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	43.38	45.94	46.11	45.09	44.75
平均値	61.61	62.34	62.46	62.88	62.32

⑧有収率(%)

【89.92】

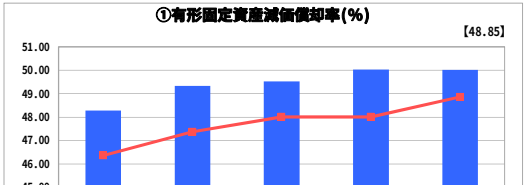


	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	92.65	87.83	88.26	90.02	90.15
平均値	90.23	90.15	90.62	90.13	90.19

2．老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

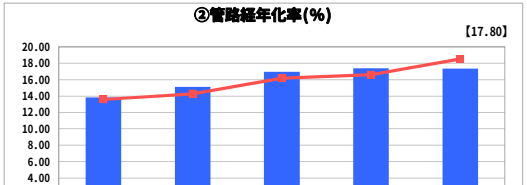
【48.85】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	48.28	49.34	49.52	50.03	50.02
平均値	46.36	47.37	48.01	48.01	48.86

②管路経年化率(%)

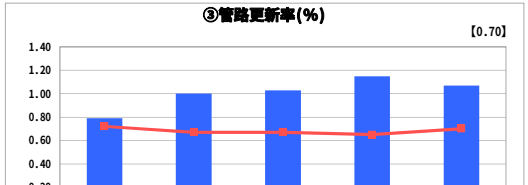
【17.80】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	13.83	15.13	16.95	17.39	17.36
平均値	13.57	14.27	16.17	16.60	18.51

③管路更新率(%)

【0.70】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	0.79	1.00	1.03	1.15	1.07
平均値	0.72	0.67	0.67	0.65	0.70

分析欄

1．経営の健全性・効率性について

◆ 経営の健全性について
①･･･常に100%を超えて推移している。
③･･･類似団体平均値と比較し良好な指標値を示している。
④･･･類似団体平均値と比較し低い水準で推移している。
　また、老朽化の状況の③管路更新率は類似団体平均値よりも高い水準で推移しており、経営の健全性は示せている。

◆ 経営の効率性について
⑥･･･類似団体平均値と比較し一貫して高い水準にあるが、この要因としては、構成費目である受水費の高さが特に際立っている。受水費以外の費目が低い水準にあることからすれば、当市の配水能力が配水量に比して相当な余裕があるものの、受水を行わなければならない地域の特殊事情によるものである。
⑦･･･類似団体平均値を大きく下回る水準となっており、適正な施設規模への転換を検討する必要がある。
⑧･･･老朽管や鉛給水管更新による漏水減少の効果等により微増となっている。

　当市の経営においては、施設の効率的な運用が課題となっている。

2．老朽化の状況について

①②･･･類似団体平均値と比較すると償却対象資産の減価償却が進んでいる状況であり、老朽化が進んでいる。平成30年度に経年化率が平均値を下回っているのは、必要な更新を適切に行っているためである。
③･･･単年度比較では類似団体平均値よりも高い水準で推移していることからすれば、必要な更新を適切に行っている状況にある。
　管路更新に当たっては、布設する配水管の道路事情等により進捗の程度は大きく変動するため、複数年度での更新率で判断するのが適当である。この場合、当市の直近３年間での更新率としては１%以上であり、平成29年3月に策定した「佐賀市水道事業経営戦略」に沿った着実な更新計画を実行している。

全体総括

　当市では、特に経営の効率性について課題が残るものの、経営の健全性は保たれている。
　しかし、今後は、人口減少により本業である給水収益も減少していく上、浄水施設の大規模更新等が控えていることからすれば、当市の利益獲得力・資金力は確実に低下していくことが想定される。
　このため、平成29年3月に策定した「佐賀市水道事業経営戦略」に基づき、管路の耐震化や老朽管の更新、適正規模を見極めた浄水施設更新時のダウンサイジング・施設の統廃合などを計画的に実施することにより、投資額の縮減を図るとともに、広域連携・官民連携の推進、将来的には、人口減少社会に対応した水道料金制度の最適化が必要になると考えている。